

東大寺二月堂声明(XII-b)

過去帳続き・諷誦文

牧 野 英 三

(奈良教育大学音楽教室)

(昭和59年4月28日受理)

I は じ め に

前稿の東大寺二月堂声明(XII-a)「過去帳」では、その冒頭より全体の12%にあたる「459」「奉宝物慶玄法師」までの部分の音楽的構成を本文ならびに旋律譜をもって検討した。本稿はそのあとを受け、「460」「水田施入珍禅法師」より末尾の「3752」「贈権大僧正新薬師寺隆聖」にわたる3053霊の含まれる部分について検討を加える。

「諷誦文」は本来死んだ人のために供物をし、その冥福を祈る気持を表わすため、僧に読んで貰うための経文を意味しているが、ここでは施主の願いの趣旨を大導師が毎日初夜に独特の節廻しで唱える願文をいう。その内容は練行衆一同、施主個人の現在者に関する祈りの現在句と、練行衆一同、施主個人の過去者に関する祈りの過去句に分けることができる。読み上げの順序も前述の通りである。現在句についてはその時代の世相を厳しく反映している内容のものが多く、伝統を護持する修二会の中にあって格別の性格をもつものと言えよう。

II 音楽的構成について

「過去帳」 過去帳は前稿でも述べた如く、過去者の年代と唱誦の態様(テンポ、リズム、主要な音の高さ、旋律型、終止等)により初段、第二段(中駈ケ)、第三段(早駈ケ)の3つに区分される。従って第三段では最後尾の36霊は僅かにテンポを落すが他は総て「早駈ケ」になるため、可能な限りの速さで唱えられる。♩=120を優に越す。リズムは1拍を♪とし、長音の2拍は♩で表示した。例えば「施入セル」は♪♪♪♪と記し、「平時房」は♪♪♪♪♪♪と記した。従って拍子の設定は不可能である。また音程が変わった場合は長音でも♪のように表わした。

第三段に入って113番目に当る本稿冒頭の「460」「水田施入珍禅法師」の旋律は \dot{e} のみで唱えられ、第三段における旋律構成の典型的な例を示している。「464」「465」「475」「476」「477」等。また「461」の「水田施入寛什阿闍梨」「462」の「奉宝物尼智阿弥陀仏」における \dot{fis} は句の頭部を明確にし、かつ詞のアクセントを強調するのに効果的で、 \dot{e} を主にした音進行の中で重要な役割を果たしている。「667」「672」「678」「679」「487」「488」「489」「492」「494」「497」「498」「501」等にその例を見ることができる。また「463」のように句の最後の拍を \dot{e} から \dot{fis} に尻上りにもって行く型が見られる。「477」「491」「541」「543」「560」「573」「581」「597」等はこの型に属する。更に「466」の末尾にあらわれる終止に際しての音の動きは、過去帳全般を通じて見られ、極めて印象的、性格的な旋律処理をしている。原本にはこの箇所にも・印と小さく「結」の字が記

されている。この箇所当てられている詞は僧位、房名、俗名等で、律師、大夫、法橋、房、法師、長印、五舎太郎、僧都、大徳、定春、法眼、印房、陀仏、妙縁等の19箇所がこの旋律で処理されている。能、狂言、歌舞伎等の台詞の抑揚に酷似しているが寧ろ息継ぎの箇所を指定したものであると思う。終止の箇所の間隔は必ずしも一定ではなく、3～13霊の差がある。従ってこの指定箇所以外での息継ぎもあり得る。

なお「671」「法華經一部開結二經施入比丘尼妙縁」の次の「永実大法師」より「3715」「清岳淨実信女」までの部分3043霊の部分については読み役のその折の判断に任せられ、箇所、数が抜き読みされる。本稿はその1例で21霊が唱えられている。

明治22年以降現在までの36霊については記載順に全部唱えられる。この部分での旋律線は総て *e* で占められ、前述の終止も見当らない。最後の「かう候」は一息入れてからゆっくり厳かに唱えて過去帳を締括る。

東大寺上院修中過去帳はその儘日本のその時代時代の政治、経済、宗教、文化の歴史でもある。そしてそれは大仏殿、二月堂を軸として展開されていると言っても過言ではない。大仏殿建立時の聖武皇帝、光明皇后、行基、良辨等、また一方、「材木知識51590人」「役人知識1665071人」「金知識372075」「役人54902人」と庶民の労力、経済力等の結集があった。東大寺別当真言の弘法大師空海。治承4年平重衡によって焼かれた大仏殿の再建に尽した源頼朝、更に永禄10年、松永久秀により焼失した大仏殿を再建した公慶上人、寛文7年の二月堂炎上の際し庶民の示した「奉同心合力某」の夥しい数。大仏殿は、二月堂は東大寺の厳しい華嚴の護持、苦しい勤進の歴史と更に多くの庶民の支え、信仰があって今日の姿を保って来たものと思われる。過去帳はその意味でも他に類例を見ない格段の意味をもつ。内手洗を間に毎日唱える神名帳と5日、12日の2回のみ「過去帳」が相対峙しているが、巧まぬ構成の妙を感じる。

「諷誦文」 諷誦文は初夜内手洗の後、祈願作法の中で唱誦される。内陣出仕後、1 神分、2 過去帳、3 神分、4 施主帳、5 神分、6 神分、7 加供帳、8 神分（但し2、3、4は5日と12日のみ）が大導師によって唱誦されるが、諷誦文はこれに引き続いて唱える。譜1は練行衆一同の現存者に関する祈りで14日間同文のものをを用いる。その年の大導師が起草する。音は *e*、*fis* に限られ、稀に詞章の冒頭に *h* を用いることがある。詞の拍数により *e* の反復の回数、それに *fis* の反復の回数が異なり、終止は最後の *fis* から *e* に進んでピッチを下げて消す。「敬って白す諷誦文の事」「……祈らんが為」等の箇所はこの手法を用いているが、諷誦文における最も特徴的な音の動きである。これは各詞章の段落に必ず使用されている。時に原水爆の禁止を訴え、また時には高度経済成長による人間喪失の不安世相を戒め、天下泰平万民快楽を祈る。最初に唱誦される諷誦文は最も長く前記のように現在句を用いる。



2も現在句で入試の合格祈願の諷誦文である。入試地獄の世情を想わせる。3も現在句。これも入試合格の諷誦文の一例である。4は過去句で護国の英霊並に全世界の戦死者の菩提を弔うための諷誦文の例である。5は現在句で悩みごとの解決されること祈っている。6、7は現在句で無病息災、求願を祈るためのもの。8は過去句で過去者忠純法師の往生極楽を祈った例である。（なお6、7、8は文のみで旋律譜は掲載していない）

諷誦文最初の現在句を除く他のものは数多く準備されている。施主の願いに従って前掲の他に「所願成就」「現当所求」「二世悉地」「現当安穩之巨益」「逆修菩提」「現当二世諸願」「転凡成聖」「出離生死頓証菩提之巨益」「出過三界」「成仏得道之巨益」「出離生死」「捨妄帰真」「成等正覚」「法界衆生同証仏果」「滅罪生善」「成仏得脱」「頓証如々」等を祈願の主旨とした諷誦文を大導

師役は用意して置き、その中から選んで唱誦する。

III あ と が き

過去帳には各時で唱えられる称名悔過、宝号等に見られる旋律、リズムの多彩さ、著しい変容等は見られない。あえて言えば節なし、棒読みの場合が多い。読み役には5日は南衆または参籠5年目の平衆、12日は衆之一と指定されており、3年目にして読み役を勤める神名帳とは格段の差がある。このことは修二会の中における過去帳の重さを何よりもよく物語っている。大導師の代役として勤めるのである。その内容の豊かさ、重さの故に乏しい音の動きを駆使し、40分を越す読み上げを集中して勤めあげるとは至難の業と言えよう。昭和38年以来の過去帳を耳に蘇らせ強く打たれるものがある。諷誦文で使用される主要な音は2つに限られていながら、夫々の音の反復の回数で総ての唱句が処理できるように構成されており、大咒願等とともに独特の風格を感じさせる。

この稿に掲げてある過去帳の旋律譜は実際に唱えられている実音ではなく、第三者の理解の便のため、読み易いよう移調してある。旋律譜の ♪  の実音は G  で13度の相違がある。また読み役の声域により過去帳全体の調子において3～5度の差が見られる。過去帳の場合はどちらかと言えば低音域での唱誦が効果的に思われる。

参考文献・資料

- (1) 佐藤道子「東大寺修二会の構成と所作上」(『芸能の科学』6所収)
- (2) 元興寺文化財研究所『東大寺二月堂修二会の研究』史料篇・研究篇)
- (3) 筒井寛秀師所蔵「東大寺修二会過去帳」(写本)
- (4) 筒井寛秀師所蔵「東大寺上院修中過去帳 (折本写真復写)
- (5) 清水公照長老所蔵「諷誦之事」(昭和38年書新大導師)
- (6) 牧野英三録音・採譜「同上過去帳・諷誦文」(昭和38年～昭和59年)
- (7) 田方広真師所蔵「過去帳補」

〔附記〕本稿を纏めるに当り、ご教示ならびに資料を提供して下さいました東大寺前執事長筒井寛秀師、狹川宗玄師、上司永慶師、鷺尾晋隆師、橋本聖円師、北河公敬師、筒井寛昭師他の各位に心からの謝意を表します。

東大寺上院修中過去帳本文（続き）

460水田施入珍禅法師 461水田施入寛什阿闍梨練 462奉宝物尼智阿弥陀仏 463観音御厨子銅犬防並
 銅香水杓施入比丘尼寿阿弥陀仏 464祐円大法師練 465銅香水杓施入比丘尼勝阿弥陀仏 466観音御厨
 子銅犬防施入勝寛権律師 467四条天皇 468栄源権律師練 469錫杖衆袈裟施入別当定豪大僧正 470造
 東大寺大勸進行勇法印 471平時房修理大夫 472宗遍法師練 473定慶擬講練 474華嚴長吏当院々主良
 禎権僧正 475平泰時左京権大夫 476良喜大徳練 477四職袈裟並花鬘施入比丘尼観阿弥陀仏 478田
 畑施入比丘尼実阿弥陀仏 479水田施入幸芸法師 480尊忍法師練 481覚源法師練 482敷地施入木工源
 成行和泉権守 483当院大工珍為重 484恵賢大法師練 485四職袈裟施入葉阿弥陀仏 486寛寛大法師練
 487貞禅権大僧都 488玄深法師練 489浄隆戒和上練 490奉鏡和気友成工守 491慶実五師練 492奉宝物慶
 恵法師練 493円算法師練 494燈油施入比丘蓮生 495祐慶法師 496集慶法師 497燈油施入比丘尼如縁
 498水田施入慶真法橋 499造東大寺勸進慶鑑法眼 500奉称名札藤原氏女 501乗信権少僧都練 502銚
 子並灑水器施入愛王女 503田園施入当院前院主聖玄法眼 504田園施入比丘蓮信 505奉水田比丘尼
 浄土房 506練行衆袈裟施入専恵法師 507良遍法印 508田園施入比丘蓮阿弥陀仏 509練行衆袈裟施
 入比丘尼蓮念 510堂司禅幸大徳練 511勝弁大法師練 512長玄法師練 513実観大徳練 514宴永大法師練
 515貞運法師練 516造東大寺大行事栄重法眼 517良忠大法師練 518隆賢大徳練 519栄舜法師練 520定重
 法師練 521練行衆並導師念珠施入性尊法師練 522定勇法師練 523木守三乘法師 524奉田園福阿弥陀
 仏 525奉銭高橋中子 526奉毎年散花々藤原中子 527円乘法師練 528延久大膳 529田園並幡花鬘施
 入僧長印 530燈油銚子施入恵憲法師 531香水杓施入比丘尼蓮真 532田園施入比丘尼観阿弥陀仏
 533燈挑箸奉加五舎太郎 534御帳奉加比丘尼浄阿弥陀仏 535五鉢半曇施入良賢法師 536実寛法師練
 537良栄法師練 538聖芸法師練 539定雄法師練 540宗弁大法師練 541弁俊大法師練 542奉称名札尊明阿闍
 梨 543奉宝物宗覚法橋練 544円尊大徳練 545奉宝物栄尊法師練 546寛舜大法師練 547沙弥道宗前相模守
 548観音御厨子宝幢施主比丘尼如円 549定覚前戒和上練 550奉木尻金物藤原金女 551同金物施入弥
 増女 552蔵円権少僧都練 553奉宝物浄玄大法師練 554前別当定親僧正 555前長官顕朝大納言 556前
 別当聖基前大僧正 557田園施入慶重大法師練 558重範大法師練 559慶範大法師練 560算数小綱教千
 561奉香水杓藤井友貞 562算数小綱珍慶 563田園施入俊永戒和上練 564定成権律師練 565田園施入慧什
 法師練 566木守五楽法師 567光慶大法師 568光印大徳練 569玄測大法師練 570後嵯峨天皇 571幡一
 流奉加尼生阿弥陀仏 572定恩大徳練 573毎年燈油施入実弁法師 574奉三面灯油良叡権少僧都 575堂
 童子一徳法子 576礼堂幡施入良寛阿闍梨 577聖禅権少僧都 578燈油施入俊源法師 579頼賢大徳練
 580燈油施入尼文阿弥陀仏 581力命丸 582理玄大徳練 583設算大法師練 584宗明五師練 585梁実法師練
 586良顕法師練 587幸源法師練 588定延法師練 589快春大徳練 590重尊大徳練 591奉時導師半曇石清水
 檢校宮清法印 592算数小綱良慶 593奉鏡並衣真阿陀仏 594畠施入宗寛法師 595練行衆衣施入実禅
 法師 596頼真大法師練 597俊慶権律師練 598奉銭左京亮安陪資直 599俊遍法師練 600頼詮法師練 601御
 堂修造前造東大寺大勸進円照上人 602禅覚大徳練 603華嚴長吏当院々主前別当宗性前権僧正 604前
 長官経俊中納言 605定縁権大僧都 606寛清大徳練 607奉念珠比丘如正 608登廊願主木工末守 609円
 舜大法師練 610別当道宝前僧正 611御堂屏金物施入法印権大僧都定春練 612宗成大法師練 613実舜法師練
 614前別当道融前僧正 615奉寶物信盛擬講練 616前別当定済前大僧正 617長春大徳練 618食堂柱施入
 執行定嚴法眼 619造東大寺大勸進聖守上人 620奉宝物快円擬講 621田園施入木守太郎法師 622順重
 法師練 623奉衣袴藤原愛寿女 624明嚴阿闍梨練 625覚玄大徳練 626奉練行衆袈裟実嚴権律師 627香

水壺並杓子入円良法師 628盛舜法師練 629奉宝物賢清擬講練 630奉衣尼西印房 631賓榔子念珠施入
 泰經法眼 632土羅施入円空上人練 633奉宝物石水権寺主院勝 634覺永大徳練 635良舜法眼練 636奉鏡
 慶成法師練 637毎年不退檀供施入清原季經右衛門少尉 638奉宝物木工泊宗繼 639田園施入重深
 法師 640田園施入尊嚴大法師 641定英法師練 642賢実大徳練 643齋守法師練 644前別当勝信前大僧
 正 645奉衣聖範法橋 646衣施入比丘尼法阿弥陀仏 647華嚴長吏宗顯法印 648信弁大法師練 649叡
 兼法師練 650奉宝物実俊法橋 651時導師香炉施入顕実擬講 652田園施入尼法阿弥陀仏 653造東大
 寺大行事憲源法師 654定顯法師 655田園並鏡施入幸福女 656俊円大徳練 657寛慧法印 658奉銅唐
 仏供良憲大法師 659奉銅唐仏供比丘尼妙蓮 660田園施入比丘尼淨念 661田園施入盛玄法師 662良
 重大法師練 663奉練行衆念珠三十一連石清水宮徳若丸 664親尊擬講練 665敷地施入宗俊法眼 666三
 論長者前別当前大僧正聖兼 667奉錫杖僧円晴 668実憲法師 669覺俊大徳 670実曉大徳練 671法華
 經一部並開結二經施入比丘尼妙縁

686当院々主貞助法印 705造東大寺大行事法眼玄寛 766華嚴長吏当院々主前別当法印権大僧都公
 曉 782擬構英海 806布十反施入戒壇院凝然上人 873当寺再興將軍源尊氏前大納言贈左大臣 883定
 信大徳練 959堂童子一徳法子 969奉宝興福寺前別当僧正孝俊 1151権律師秀恵 1473奉宝物三木清
 兵衛 1810奉造営俊乗上人之御影堂中井大和 1899奉鑄大仏殿金蓮華高野山万勝院 2017奉施入米一
 百石左大臣秀頼 2499贈東大寺大勸進上人公慶法印大和尚位権大僧都敬阿弥陀仏 2500奉過去帳二
 本書写法印権大僧都晃海 2501時導師半畳施入西井善兵衛 2532奉同心合力藤井喜右衛門 2535奉同
 心合力青木孫助 2664奉宝物公盛上人 3314奉宝物隆縁法師（次より明治以降の過去諸霊）

3716華嚴宗管長東大寺別当大僧正鼓阪荐海 3717華嚴宗管長東大寺別当菅沼英樹 3718宝嚴院権大
 僧都柳原懷円 3719華嚴宗管長東大寺別当大僧正戸田英懷 3720中性院僧正平松晋海 3721宝嚴院権
 大僧都有海 3722上之坊権大僧都富小路寛巽 3723華嚴宗管長東大寺別当大僧正晋円 3724宝珠院僧
 正堯恭

3725正観院贈権少僧都性蔵 3726上之坊僧正戒津 3727真言院僧正明淳 3728宝嚴院公賢僧正 3729東
 室弁準大僧都 3730華嚴宗管長東大寺別当大僧正寛聖 3731華嚴宗管長東大寺別当大僧正英慶 3732
 贈権僧正元興寺慧玉 3733華嚴宗管長東大寺別当大僧正永純 3734観音院僧正晋清 3735華嚴宗管長
 東大寺別当大僧正春海 3736元興寺圭真 3737持明院忍隆 3738空海寺憲英 7739一徳円清法師 3740
 持宝院僧正永晋 3741華嚴宗管長東大寺別当大僧正公俊 3742権少僧都瑞応 3743華嚴宗管長東大寺
 別当大僧正隆慶 3744華嚴宗管長東大寺別当明海 3745正観院権大僧正英祐 3746華嚴宗管長東大寺
 別当大僧正英俊 3747二徳公清法師 3748贈権大僧正無量院瑞真 3749華嚴宗管長東大寺別当大僧正
 海雲 3750華嚴宗管長東大寺別当大僧正公海 3751忠純法師 3752贈権大僧正新薬師寺隆聖 「かう
 候」

諷 誦 文

〔現在句〕 1 （鈴三振）

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹。右志趣は天下泰安万快樂を祈らんが為め、補
 陀落の靈場に詣して三箇の金鈴を鳴らすものなり。夫れつらつら法爾自然の相を觀ずるに慈雨又
 慈光花咲い鳥歌うの歎喜天地に満ち溢る。然るに人間界独り無始無明の痴闇におおわれ輪廻の轍
 を脱することを得ずとかや。うべなるかな翻って今時人智の向上、科学の發達は未曾有の躍進を
 遂げ、人類の幸福弥や増すかに希ひ望みに、図らずも却って物心の相克知情の離反、加ふるに

機械の燥音経済の動転愈々熾烈を極め、人間喪失の不安世相を蔽ひ身邊に迫り来るを覚ゆ。或は断或は無、孤独寂漠、忽如として足下無底の深淵に臨む。恐怖又狂燥人間復帰を叫べんとするも及ばず、更に東又西、主義の確執地上各処に猶生命の尊貴をほおむり去らんとす。之を思ふに人為智の過信は、却って自然の寛容を萎靡凍結するかの観あり。しばらく首を回らして三思三省の期にあらざるや。茲に般若と慈悲を掲げて三世通観の妙道を絶叫し玉ひし大聖釈迦牟尼世尊のを要する金言金口、新らたに切々たるものあり。今年又練行の諸衆日夜悔過懺悔の功力を重ね、当願衆生の大悲願に預からんとする者なり。仍て冀んば毘盧遮那の光明遍く衆生界に光被し、観自在薩埵の慈愛たちまち甘露の法雨を灑いであまねく飢渴の衆生を医やし玉ひ、雜華嚴浄の大蓮華藏海を莊嚴せしめ玉わんことを。仍而所修如件。昭和四十二年今月今夜 施主練行衆一同敬って白す。(鈴一振) 〔現在句〕 2 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹。右志趣は登竜の志願を祈らんがため、三箇の梵鈴を鳴らす者也。仰ぎ冀くば人聖の加被を蒙っては平静の沈着を失わず、年来蛩雪の功全分是答解することを得て、学業の枢府象牙の宝塔たちどころに其の扉を開き、やがては天分の發揚天称の自覺以て社会に貢献せんことを。乃至恵日諸の闇を破り、普く明らけく世間を照らさん。仍而所修如件。昭和四十二年今月今夜 施主某 敬って白す。(鈴一振) 〔現在句〕 3 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹、右所志は心中の所願を祈らんが為、補陀落之靈場に詣して梵鈴を鳴らし、諸尊を驚かし奉る者也。夫れ恭敬礼拝之臺の上には益々十一面の擁護に預って、万春の花の匂を施し、從來聴聞之床の下には重ねて普門広大の恩徳を蒙り、千秋の月光を増し、猶祈らくは学業愈々進み象牙の宝塔其の門扉を開かん。仍而所修如件。昭和四十二年今月今夜施主練行衆一同敬って白す。(鈴一振) 〔過去句〕 4 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹、右志趣者護国の英靈並に全世界の戦歿之諸霊の菩提を弔らわんが為、修二之宝前に踞いて三箇の清磬を鳴らす者也。夫れ観音薩埵者蓮台を捧げ諸霊安養界に導き玉ひ、兼ては慈悲を遺家族之上に垂れ、国土を安穩に護り玉わんことを。更には又六親眷属悉く成仏することを得て代々の幽魂同じく一蓮の花台に坐し、四生の含識も亦上品内院の宝刹に至らん。乃至有縁無縁同証仏果、仍而所修如件。昭和四十二年今月今夜 施主練行衆一同敬って白す。(鈴一振) 〔現在句〕 5 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹。右所志者断迷開悟祈らんが為、修二之宝前に跪いて一紙の唵を捧ぐる者也。乞願くは托生を九品の止業に卜して覚悟を上品の台に開かん。乃至群類同生浄土、仍而所修如件。昭和四十二年今月今夜施主某敬って白す。(鈴一振)

〔現在句〕 6 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹。右意趣諸某息災延命を祈らんが為、一紙の唵を捧ぐる者也。若し然らば、大慈大悲の利益に預って亀鶴の齡ひ尽くる事無くして、七難をば千里の外に払い、七福を両掌の中に納めん。仍而所修如件。昭和四十二年今月今夜 施主某敬って白す。(鈴一振)

〔現在句〕 7 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹。右意趣者某現当の求願を祈らんが為、一紙の唵を捧ぐる者也。乞願くは本尊海会之誓約を蒙りて現には忽に椿葉の齡花を開き、当には衣裏の珠宝を磨かん。乃至鉄圍沙界平等普利、仍而所修如件。昭和五十七年今月今夜 施主某敬って白す。(鈴一振)

〔過去句〕 8 (鈴三振)

敬って白す諷誦文の事。三宝衆僧の御布施一裹、右志趣者忠純法師往生極樂の巨益を祈らんが為、修二之宝前に踞いて一紙の唵を捧ぐる者也。乞願くは托生を九品の臺にトし覚悟を九品の臺に開かん。乃至群類同生浄土、仍而所修如件。昭和五十七年今月今夜 施主某敬って白す。(鈴三振)

◎本文旋律譜

過去帳第三段(続き)

460 $\text{♩} = 268 \sim 252$ v 461

スイデンセ ニューセル チンゼンホッ シー スイデンセニューセルカンジューアシャ リ
水田 施入 珍 禪 法 師 水田 施入 寛 什 阿闍 梨

462 v 463

ホーモ タテマツレルニチアミダ プ カンノンノ ミズシノ アカガネノ イヌブセギ
宝 物 奉 尼智阿弥陀 仏 観 音 御 厨 子 銅 犬 防

ナラビニア カガネノ コーゾイノ ヒサゴセニューセルニジュ アミ ダ プー
銅 剣 香 水 杓 施入 比丘尼寿 阿弥陀 仏

464 465

ユーエンダイホッシアカガネノ コーゾイノ ヒサゴセ ニューセルニショ アミ ダ プ
祐 円 大 法 師 銅 香 水 杓 施入 尼 勝 阿弥陀 仏

466 v

カンノンノ ミズ シ ノ アカガネノ イヌブセギセ ニューセル ショーカン ゴンリッシー
観 音 御 厨 子 銅 犬 防 施入 勝 寛 権 律 師 ○

467 468 469

シジョー ノ テンノー ヨーゲンゴンリッシー シヤクジョー シュノケ サ セ ニューセル
四 柔 天 皇 榮 源 権 律 師 錫 杖 衆 袈 裟 施入

470

ベッタージョー ゴーダイソージョー ソーダーダイジノ ダイカンジンキョーユーホーイン
別 当 定 豪 大 僧 正 造 東 大 寺 大 勤 進 行 勇 法 印

471 v 472 473

タイラノ トキフサ シュリノゴンノ ダイブー ソー ヘン ホッシー ジョーケイギ コー
平 時 房 修 理 権 大 夫 ○ 宗 遍 法 師 定 慶 擬 講

474 475

ケ ゴンノ チョーリ トーインノ インジュリョー チョーゴンソージョー タイラノヤストキ
華 嚴 長 吏 当 院 監 主 良 禪 權 僧 正 平 泰 時

476 477

サキョーノ ゴンノ ダイブ リョーキ ダイタクシ シキノ ケ サ ナラビニ ケ マン
左 京 権 大 夫 良 喜 大 徳 四 職 袈 裟 並 華 嚴

v 478

セニューセルビク ニカンア ミダ プー デンバタセ ニューセルビクニジツアミダプ
施入 比 丘 尼 觀 阿 弥 陀 仏 田 晶 施入 比 丘 尼 実 阿 弥 陀 仏

479 480 481 482

スイデン セニューセル コーゲイ ホッシー ソニンホッシー カクゲンホッシー シ キ チ
水 田 施入 幸 芸 法 師 尊 忍 法 師 寛 源 法 師 敷 地

483

セニューセルモツコーミナモトノナリユキイズミノゴンノカミ トーインノダイク チンノ
施入 木 工 源 成 行 和 泉 權 守 当 院 大 工 珍

484 485

タメシゲ エ ケンダイホッシー シ シキノケ サ セニューセル ヤク アミ ダーブー
為 重 恵 賢 大 法 師 四 職 袈 裟 施入 藥 阿 弥 陀 仏 ○

486 487 488 489

カンガクダイホッシー チョー ゼンゴンダイソーズ ゲンジンホッシー ジョーリョーカイワジョー
寛 覺 大 法 師 貞 禪 權 大 僧 都 玄 深 法 師 淨 隆 戒 和 上

490 491 492

カガミタテマツレルワケノトモナリタクミノカミ キョージツゴ シー ホーモ
鏡 奉 和 氣 友 成 工 守 慶 実 五 師 宝 物

493 494

タテマツレルキョー エ ホッシー エンザンホッシー トーユ セニューセルビクニレンジョー
奉 慶 恵 法 師 円 算 法 師 燈 油 施入 比 丘 尼 蓮 生

495 496 497

ユーケイホッシー ジューケイホッシー トーユ セ ニューセルビク ニ ジョーエン
祐 慶 法 師 集 慶 法 師 燈 油 施入 比 丘 尼 如 縁

498 v 499

スイデン セニューセル キョーシンホーキョー ソーダーダイジノカンジンキョーガハゲン
水 田 施入 慶 真 法 師 ○ 造 東 大 寺 勤 進 慶 鑑 法 眼

500 v 501

ショーミョーノ フダ タテマツレルフジワラノウジジョー ジョーシンゴンショーロー ズ
称 名 札 奉 藤 原 氏 女 乘 信 權 少 僧 都

502 503
 チョシ ナラビニ シヤスイキセ ニューセルアイオーショ デンオンセ ニューセル
 銚子並 酒水器施入 變王女田園施入

504
 トーインノサキノインシュゲンホーゲン デンオンセ ニューセル ビクニレンシン
 当院前院聖聖玄法眼 田園施入 比丘尼蓮信

505 506
 スイデンタテマツレルビクニジョドボー レンギョシュノ ケサセ ニューセル
 水田奉 比丘尼浄土房 練行衆 袈裟施入

507 508
 センエ ホッシ リョーヘンホッシ デンオンセ ニューセル ビクニレンアミダブ
 専勝法師 良遍法師 田園施入 比丘尼蓮阿彌陀仏

509 510
 レンギョシュノ ケサセ ニューセル ビクニレンネン ドーツカサ ゼンコーダイトク
 練行衆 袈裟施入 比丘尼蓮念堂司 禪幸大徳

511 512 513 514
 ショーベンダイホッシ チョーゲンホッシ ジツカンダイトクエンエイ ダイホッシ
 勝弁大法師 長玄法師 実観大徳 婆永大法師

515 516 517
 チョーウンホッシー ソー トーダイジノダイギョージョー チョーホーゲンリョー チョー
 貞運法師 造東大寺大行事 榮重法眼 良忠

518 519 520 521
 ダイホッシ リョーケンダイトクエイシンホッシ ジョーチョーホッシ レンギョーシュ
 大法師 臨賢大徳 榮舜法師 定重法師 練行衆

522
 ナラビニ シドーシノ ネンジュセニセルショーノンホッシ ショーユーホッシ
 並時導師 念珠施入 性尊法師 定勇法師

523 524 525
 コモリ サンラクホッシ デンオンタテマツレルフクアミダブ ゼニタテマツ
 木守三楽法師 田園奉 福阿彌陀仏 銚子奉

526
 レルタカハシノナカノコ マイネンサンゲノハナタテマツレルフジワラノサカノコ
 高橋中子 毎年散華華奉 藤原中子

527 528 529
 エンジョーホッシ ノブヒサノダイゼン デンオンナラビニバンケマンセニセル ソー
 円乗法師 延久大勝 田園並 幡花變施入 僧

530 531
 チョーイン トーユノチョーシセニセルカクエ ホッシ コーゾイノヒサゴ
 長田 燈油 銚子施入 覺露法師 香水 杓

532
 セニセルビクニレンシンデンオンセニセルビクニカンアミダブ
 施入 比丘尼蓮真田園施入 比丘尼觀阿彌陀仏

533 534
 トモシヒカカグルハシタテマツレル ゴシャタロー ミチョーホーガセル ビクニ
 燈 挑 箸奉 五舎太郎 御般若加 比丘尼

535 536
 ジョーアミダブ ゴタイノハンジョーセニセルリョーケンホッシ ジツカンホッシ
 淨阿彌陀仏 五体半疊施入 良賢法師 実寛法師

537 538 539 540
 リョーエイホッシ セイゲイホッシ ジョーオーホッシ ソーベンダイホッシ
 良榮法師 聖芸法師 定雄法師 宗弁大法師

541 542 543
 ベンシュンダイトク ショーミョーノフダタテマツレル ソンミョーアジャリ ホーモタテマツ
 弁俊大徳 称名札奉 尊則 阿彌梨宝物奉

544 545
 レルシュエーガクホーキョー エンノンダイトク ホーモタテマツレル エイソンホッシ
 宗覺法橋 円尊大徳 宝物奉 榮尊法師

546 547 548
 カンシュンダイホッシ シヤミドーソーサキノサガミノカミ カンノンノ ミズシノ
 寛舜大法師 沙弥道宗前 相模守 觀音 御厨子

549 550
ホ ドー セニセ セルピク ニ ジョ エン ジョー カクサキ ノカイワジョー キジリノカナモノ
宝 龜 施入 比丘尼如 縁 定 覺前 戒 和上 木尻 金 物

551 552
タテマツレルフジワラノ カネコ オナジキカナモノセニセ セルイヤマズジョーエン
奉 藤 原 金子 同 金 物 施入 弥 増 女 蔵 円

553 554
ゴンシヨ ソーズ ホモタテマツレル ジョー ゲンダイホツシ サキノバットー ジョー シンノー ジョー
權 少 僧 都 宝 物 奉 淨 玄 大 法師 前 別 当 靈 基 前 大 僧 正

555 556
サキノチヨー カンアキトモノダイナゴン サキノバットーリヨ キ サキノダイソージョー
前 長 官 顯 朝 大 納 言 前 別 当 靈 基 前 大 僧 正

557 558 559
デンオンセニセ セルケイチヨーダイホツシ チヨー バンダイホツシ ケイバンダイホツシ
田 園 施入 慶 重 大 法師 重 範 大 法師 慶 範 大 法師

560 561
サンズノシヨ コ キヨー セン コーゾイノ ヒサゴタテマツレル フジノ トモサダ
算 數 小 綱 教 千 香 水 杓 奉 藤 友 貞

562 563 564
サンズノシヨ コ チンケイ デンオンセニセセル シュンエイカイワジョー ジョー セイゴンリッ シ
算 數 小 綱 珍 慶 田 園 施入 俊 永 戒 和上 定 成 權 律 師

565 566 567
デンオンセニセ セルエジューホツシ コ モ リ ゴ ラ ク ホツシ コーケイダイホツシ
田 園 施入 鷲 什 法 師 木 守 五 楽 法 師 光 慶 大 法師

568 569 570 571
コーイン ダイタク ゲンネンダイホツ シー ゴ サガノテンノー パンイチリョー
光 印 大 德 玄 洞 大 法師 〇 後 睦 職 天 皇 幡 一 流

572 573
ホーガセルニシヨ アミダブ ジョー オンダイタクマイネン トーユ セニセ セルジツベン
奉 加 尼 生 阿 弥 陀 仏 定 恩 大 德 毎 年 燈 油 施入 実 弁

574 575
ホツシー サンメンノトユタテマツレルリヨ エイゴンシヨ ソーズ ドーダー ジ イツ
法 師 三 面 燈 油 奉 良 叡 權 少 僧 都 堂 童 子 一

576 577
トクホツシ ライドー ノ パンセニセセルリヨ カンアジャ リー ショー ゼンゴンシヨ
德 法 師 札 堂 幡 施入 良 寛 阿 闍 梨 聖 禪 權 少

578 579 580
ソーズー トーユ セニセ セルシュンゲンホツシ ライケンダイトク トーユセニセ セル
僧 都 〇 燈 油 施入 俊 願 法 師 頼 賢 大 德 燈 油 施入

581 582 583 584
ニブンアミダブ リキメイマルー リゲンダイトクエイザンダイホツシ ソーメイゴ シ
尼 文 阿 弥 陀 仏 力 命 丸 理 玄 大 德 叡 算 大 法師 宗 明 五 師

585 586 587 588 589
リヨ ジツホツシ リヨ ゲンホツシ コーゲンホツシ ジョー エンホツシ カイシュンダイトク
梁 実 法 師 良 顯 法 師 幸 源 法 師 定 延 法 師 快 春 大 德

590 591
チヨー ソンダイ トク ジドーシノハシ ジョー タテマツレルイワシミズノケンギョー キョー
重 尊 大 德 〇 時 導 前 半 覺 奉 石 清 水 鏡 校 宮

592 593
セイホーイン サンズノシヨ コ リヨー ケイカガミナラビニコロモタテマツレル
清 法 印 算 數 小 綱 良 慶 鏡 並 衣 奉

594 595
シンアミダブ ハタケセニセセルソーカンホツシ レンギョーシヨ ノコロモ セニセ
真 阿 弥 陀 仏 晶 施入 宗 寛 法 師 練 行 衆 衣 施入

596 597 598
セル ジツゼンホツシ ライシンダイホツシ シュンケイゴンリッ シー ゼニタテマツ
実 禪 法 師 頼 真 大 法師 俊 慶 權 律 師 鏡 奉

599 600
レルサキヨー ノスケアベノスケナオ シュンヘンホツシ ライセンホツ シー
左 京 亮 安 倍 資 直 俊 遍 法 師 頼 詮 法 師 〇

601 602
ミドーシユ ソーセルサキノソート ダイノ ダイカンジン エンシヨシヨ ニンゼンカク
御堂 修造 前 造東大寺 大勸進 円照上人 禅覺

603
ダイトクケゴンノチヨ リ トーイン ノインジュ サキノベツ トーソーシヨ サキノ
大徳 華嚴 長吏 当院 院主 前 別当 宗性 前

604 605
ゴンソーシヨ サキノチヨ ガンツネトシノチヨ ナゴン シヨ エンゴンダイソー
権僧正 前 長官 経俊 中納言 定縁 権大僧都

606 607 608
カンセイダイトク ネンジュタテマツレルビ ク ニ ジョセイ ノボリノ ローノガンジュ
寛清大徳 念珠奉 比丘尼如正 登廊願主

609 610
モッコースエモリ エンシュンダイホッシ ベットードーホーサキノ ダイソージョー
木工末守 円舞大法師 別当道宝前 大僧正

611
ミドーノ トヒラノ カナモノセニユセルホーインゴンダイソーズ ジョーシュン
御堂 扉 金物施入 法印 権大僧都 定春 ○

612 613 614
ソーセイダイホッシ ジツ シュンホッシ サキノベツトードーユーサキノダイソージョー
宗成大法師 実舜法師 前 別当道藏前 大僧正

615 616
ホーモタテマツレル シンセイギ コー サキノベツトードーゼイサキノダイソージョー
宝物奉 信盛 齋講前 別当定济前 大僧正

617 618
チヨ シュンダイトクジキ ドーノ ハシラセニユセル シツコジョーゲン ホー ゲン
長春大徳 食堂 柱 施入 執行定嚴 法眼 ○

619 620
ソートーダイシノダイカンジンシヨ ジュシヨ ニンホーモタテマツレルカイエンギ コー
造東大寺 大勸進 聖守上人 宝物奉 快円 齋講

621 622 623
デンオンセニユセル コモリタ ローホッシ ジュンジョーホッシ コロモハカマ タテマ
田園施入 木守太郎法師 順重法師 衣袴 奉

624 625 626
ツレル フジワラノアイジュニヨ ミヨーゴンア ジャリ カクゲンダイトクレンギヨ シュノ
藤原 變寿女 明嚴阿闍梨 覺玄大徳 練行衆

627
ケサタテマツレル ジツゲンゴンリッシ コーズイノツボナラビニヒサゴセニユセル
袈裟奉 実嚴 權律師 香水 童並並杓 施入

628 629 630
エンリヨホッシ セイシュンホッシ ホーモ タテマツレル ケンセイギ コーコロモ
円良法師 盛舜法師 宝物奉 賢清 齋講 衣

631
タテマツレルニ サイ インボー ビンロージノネンジュセニユセルタイケイホーゲン
奉 尼西印房 ○ 檀都子 念珠施入 泰經 法眼

632 633
ドラセニユセルエンクーシヨニン ホーモタテマツレルイワシミズノゴンノテラジュ
土羅施入 円空上人 宝物奉 石水 權寺主

634 635 636
インシヨ カクエイダイトクリヨ シュンホーゲンカガミ タテマツレル ケイジョー ダイホッシ
院勝覺永大徳良舜法眼 齋奉 慶成大法師

637
マイネンフタイノ ダング セニユセルキヨワラノスエツネウエモンノ シヨ ジョ
毎年不退 壇供施入 清原 季経 石衛門 少 尉

638 639
ホーモタテマツレル モッコーコマンネツグ デンオンセニユセル チヨ シンホッシ
宝物奉 木工 約宗 經田園施入 重深法師

640 641 642
デンオンセニユセル ノンゴンダイホッシ シヨ エイホッシ ケンジツダイトク
田園施入 尊嚴大法師 ○ 定英法師 賢実大徳

643 644 645
 チョー シュホツシ サキノベツトーシヨ シンサキノ ダイソージョー コロモタテマツレル
 寛 守 法 師 前 別 当 勝 信 前 大 僧 正 衣 奉
 646 647
 ショー パンホーキョー コロモセニユ セルビ クニ ホーア ミ ダブ ケゴンノ チョー リ
 聖 藥 法 橋 衣 施 入 比 丘 尼 法 阿 弥 陀 仏 華 嚴 長 吏
 648 649 650
 ソーゲンホーインシンパンダイホツシ エイケンホツシ ホ モタテマツレルジッセン
 宗 願 法 印 信 弁 大 法 師 兼 兼 法 師 宝 物 奉 実 俊
 651 652
 ホーキョー ジドーシノ コー ロセニユセルケンジツギ コー デンオンセニユセルニホー
 法 橋 時 導 師 香 炉 施 入 願 実 嚴 講 田 園 施 入 尼 法
 653 654
 アミダブー ソートダイジノダイキョーシ ケンケンホツシ ジョーケンホーイン
 阿 弥 陀 仏 〇 造 東 大 寺 大 行 事 源 法 師 定 願 法 印
 655 656 657
 デンオンナラビニカガミセニユセル コーフクニョ シュンエンダイトクカンエ ホーイン
 田 園 並 鏡 施 入 幸 福 女 俊 円 大 徳 寛 慧 法 印
 658 659
 アカガネノ カラ ブツグタテマツレル リョーケンダイホツシ アカガネノカラブツグタテマツ
 銅 唐 仏 供 奉 良 寛 大 法 師 銅 唐 仏 供 奉
 660 661
 レルビクニ ミョーレンデンオンセニユセルビ クニ ジョーネンデンオンセニユセル
 比 丘 尼 妙 蓮 田 園 施 入 比 丘 尼 淨 念 田 園 施 入
 662 663
 セイゲンホツシ リョーシエダイホツシ レンギョーシエノ ネンジュ サンジエ イチレン
 盛 玄 法 師 良 重 大 法 師 練 行 衆 念 珠 三 十 一 連
 664 665
 タテマツレルイワシミズノミヤノトクワカマルー シンゾンギ コーシキチセニユ セル
 奉 石 清 水 宮 徳 若 丸 親 尊 嚴 講 敷 地 施 入

666
 ソーシヨンホー ゲン サンロンノ チョージャ サキノベツトーサキノダイソージョー
 宗 俊 法 眼 〇 三 論 長 者 前 別 当 前 大 僧 正
 667 668 669 670
 ショー ケンシヤクジョー タテマツレル ソーエンセー ジッケンホツシカクシュンダイトクジツキョー
 聖 兼 鏡 杖 奉 僧 円 晴 実 憲 法 師 寛 俊 大 徳 実 曉
 671
 ダイトクホケキョーイチブ ナラビニ カイケツニキョーセニユセルビ クニ ミョーエン
 大 徳 法 華 經 一 部 並 開 結 二 經 施 入 比 丘 尼 妙 縁 〇

続いて近世以降の分が読役の判断により抜粋して読み上げられるが、
 明治以降の分については、記載の通り全部読誦する。

(抜粋の部分はその一例として次に掲げる。)

(672 ~ 685) ... 省略。
 (14名) 686
 トーインノ インジュチョージョー ホーイン
 当 院 主 貞 助 法 印

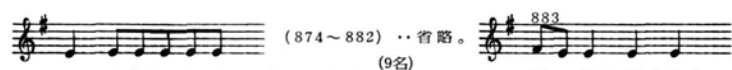
(687 ~ 704) ... 省略。
 (18名) 705
 ソートダイジノダイキョーシ ホーゲンケンカン
 造 東 大 寺 大 行 事 法 眼 玄 寛

(706 ~ 765) .. 省略。
 (60名) 766
 ケゴンノチョーリ トーインノインジュサキノベツトーホーイン
 華 嚴 長 吏 当 院 院 主 前 別 当 法 印

(767 ~ 781) .. 省略。
 (15名) 782
 ギコー エイ カイ
 嚴 講 英 海

(783 ~ 805) .. 省略。
 (23名) 806
 ヌ ノジッタンセニユセルカ イダンインノギョーネンシヨニン
 布 十 反 施 入 戒 壇 院 凝 然 上 人

(807 ~ 872) .. 省略。
 (66名) 873
 トーシ サイコーセルシヨグンミナモトノタカウジサキノダイナ ゴン
 当 寺 再 興 将 軍 源 尊 氏 前 大 納 言



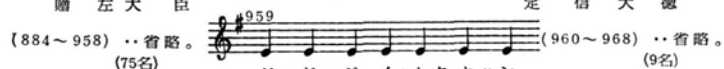
(874~882) ..省略。

(9名)

ゾーサダイジン
贈左大臣

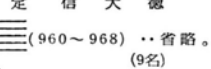


ジョーシンダイトク
定信大徳

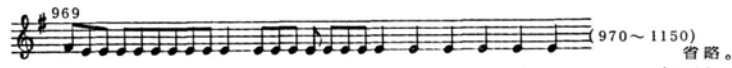


(75名)

ドードーシ イットク ホッシ
堂童子一徳法子

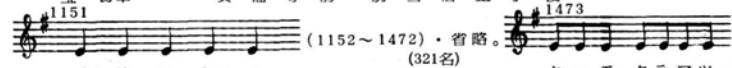


(9名)



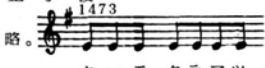
(181名)

ホーモタテマツレルコフクジノサキノベッソーショコージュン
宝物奉興福寺前別当僧正孝俊

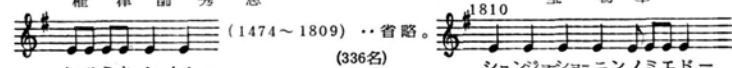


(321名)

ゴンリッシ シューエ
権律師秀恵



ホーモタテマツ
宝物奉



(336名)

レルミキ セイパー
三木清兵衛



シュンジョーショニンノミエドー
俊乗上人御影堂

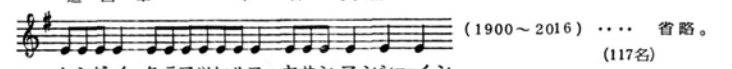


(88名)

ゾーエイタテマツレルナカイ ヤマト
造営奉中井大和

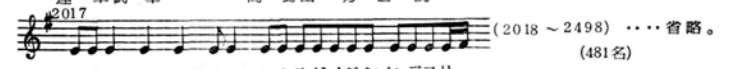


ダイブツノキン
大仏金



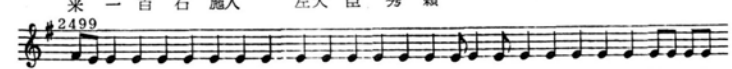
(117名)

レンゲイ タテマツレルコヤサン マンショイ
蓮華講奉高野山万勝院

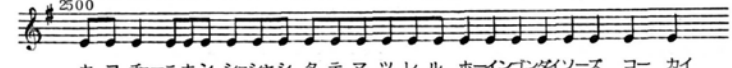


(481名)

コメイッピヤツコクセニセルサダイジンヒデヨリ
米一百石施入左大臣秀頼



ゾートダイジダイカンジンショニンコケイホインダイカショイゴンダイソーズケイアミダブ
東大寺大勧進上人公慶法印大和尚位権大僧都敬阿弥陀仏



カコチーニホンショシヤシタテマツレルホーインゴンダイソーズコーカイ
過去帳二本書写奉法印権大僧都晃海



(2502~2531) ..省略

(30名)

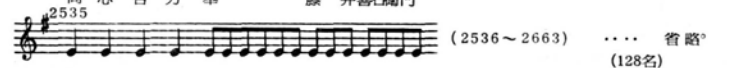
ジドーシノハンショセニセルニシイゼンペエ
時導師半覺施入西井善兵衛



(2533~2534)

...省略
(2名)

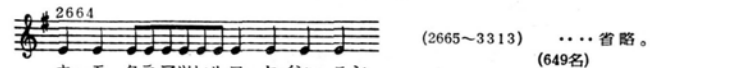
ドーシンゴリョクタテマツレルフジイキエモン
同心合力奉藤井喜右衛門



(2536~2663)

...省略
(128名)

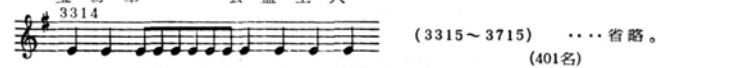
ドーシンゴリョクタテマツレルアオキマゴスケ
同心合力奉青木孫助



(2665~3313)

...省略
(649名)

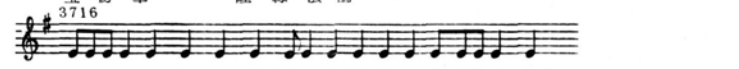
ホーモタテマツレルコセイショニン
宝物奉公盛上人



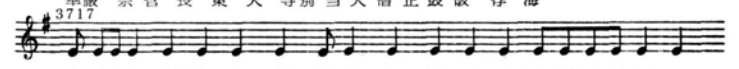
(3315~3715)

...省略
(401名)

ホーモタテマツレルリエンホッシ
宝物奉隆縁法師



ケゴンシェカンチョー トーダイジベッ トーダイソージョツザカセンカイ
華嚴宗管長東大寺別当大僧正鼓阪尊海



ケゴンシェカンチョー トーダイジベッ トーダイソージョツガヌマエイジュ
華嚴宗管長東大寺別当大僧正菅沼英樹



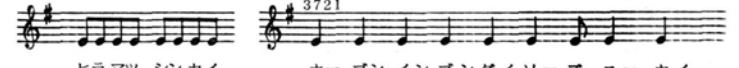
ホーゴンインゴンダイソーズヤナギハラカイエン
宝厳院権大僧都柳原懐円

ケゴンシェカンチョー
華嚴宗管長



トーダイジベッ トーダイソージョトダエイカイ
東大寺別当大僧正戸田英懷

チーショイソージョ
中性院僧正



ヒラマツシンカイ
平松晋海

ホーゴンインゴンダイソーズユーカイ
宝厳院権大僧都有海

3722 カミノボーゴンドアイ ソーズ トミノコシカンセン
上坊権大僧都富小路寛興

3723 ケゴンシュカン チョー
華嚴宗管長

3724 ホシュインソージョーギョーキョー
宝珠院僧正亮恭

3725 トーダイジ ペットーダイ ソー ジョーシン エン
東大寺別当大僧正晋円

3726 カミノボーソージョーカイン
上之坊僧正戒津

3727 ショーカンインソーショー ソーズ ショー ソー
正観院贈少僧都性藏

3728 ホーゴンインコー ケン ソー ジョー
宝言院公賢僧正

3729 シンゴンイン ソー ジョーミョー ジュン
真言院僧正明淳

3730 ヒガシムロ バン ジュンダイ ソーズ サキノケゴンシュカンチョー トーダイジ
東室弁準大僧都前華嚴宗管長東大寺

3731 ペットー ダイ ソー ジョーカン セイ ケゴンシュカンチョー トーダイジ ペットーダイソージョーエイケイ
別当大僧正寛聖 華嚴宗管長東大寺別当大僧正英慶

3732 ソーゴンソーショーガンゴーシ ケイ キョウ ケゴンシュカンチョー トーダイジ
贈権僧正元興寺 慧玉 華嚴宗管長東大寺

3733 ペットー ダイソージョーエイシン カン ノン イン ソー ジョーシン セイ
別当大僧正永純 観音院僧正晋清

3734 ケゴンシュカンチョー トーダイジ
華嚴宗管長東大寺

3735 ケゴンシュカンチョー トーダイジ ペットーダイソージョーシンカイ
華嚴宗管長東大寺別当大僧正春海

3736 ガンゴーシ ケイ シン シ ミョー イン ニン リュー
元興寺圭真 持明院忍隆

3738 クー カイ シ ケン エイ イットクエンセイホツ シ
空海寺 惠英 一徳円清法師

3739 ジーホーインソージョーエイシ ン ケゴンシュカンチョー トーダイジ ペットー
持宝院僧正永晋 華嚴宗管長東大寺別当

3740 ダイソージョーコーシュン ゴンショー ソーズ スイオー ケゴンシュカンチョー
大僧正公俊 権少僧都瑞応 華嚴宗管長

3741 トーダイジペットーダイソージョーリエケイ ケゴンシュカンチョー トーダイジ
東大寺別当大僧正隆慶 華嚴宗管長東大寺

3742 ペットーダイソージョーミョーカイ ショーカンインゴンダイソージョーエイ ユー
別当大僧正明海 正観院権大僧上英祐

3743 ケゴンシュカンチョー トーダイジ ペットーダイソージョーエイ シュン
華嚴宗管長東大寺別当大僧正英俊

3744 ニトクコーセイホツシー ソーゴンダイソージョームリョーイン スイシン
二徳公清法師 贈権大僧正無量院瑞真

3745 ケゴンシュカンチョー トーダイジ ペットーダイソージョーカイウン
華嚴宗管長東大寺別当大僧正海雲

3746 ケゴンシュカンチョー トーダイジ ペットーダイソージョーコーカイ
華嚴宗管長東大寺別当大僧正公海

3747 チュジュンホツシ ソーゴンダイソージョーシンヤクシ リューセイ コーソーロー
忠純法師 贈権大僧正新薬師寺隆聖 かう候

誦誦文

ウ ヤ マッテモスフ シュモンノ コトー サン ボー シュソー ノ オンパセツカーー
敬 べて白す誦誦文 の 事 三 宝 衆 僧 の 御 布 施 一 幕

ミ ギ シ シュハテン カタイアンバンミン ケラクヨイノランガタメー フ ダラクノ
右 志 趣 は 天 下 泰 安 万 民 快 楽 を 祈 ら ぬ が 為 補 陀 落 の

レイジョーヲ ケイシテサンガノキンレイヲナラスモノナリー ソレツラツラホーニ
靈 場 を 詣 して 三 個 の 金 鈴 を 鳴 ら す も の な り 夫 れ つ ら つ ら 法 爾

シゼンノソーカズルニジウマタジ コーハナワライトリウタウノカンギテンチニ
自 然 の 相 を 観 ず る に 慈 雨 又 慈 光 花 咲 い 鳥 歌 う の 歡 喜 天 地 に

ミチアフルー シカルニニンガイヒトリ ム シ ムミョーノ チ アンニ オーワレ
満 ち 溢 る 然 る に 人 界 独 り 無 始 無 明 の 痴 闇 に お お わ れ

リンネノワダチヲ ノガルルコトヲ エストカヤー ウベナルカナ ヒルガエツテ
輪 廻 の 轍 を 脱 る こと を 得 ず と か やー う べ な る か な 翻 っ て

コンジ ジンチノコージョーカガクノ ハツタツハ ミ ソーウノヤクシンヲ トゲー
今 時 人 智 の 向 上 科 学 の 発 達 は 未 曾 有 の 躍 進 を 遂 げ

ジンルイノ コーフクイヤマスカニネガイノゾミシニー ハカラスモ カエツ テ
人 類 の 幸 福 弥 や ま す か に 希 い 望 み し にー 図 ら ず も 却 っ て

ブツシンノ ソーコクチ ジョーノ リハンクオウルニキ カイノ ソーオンケイザイノ
物 心 の 相 克 知 情 の 離 反 加 ふ る に 機 械 の 燥 音 経 済 の

ドーテンイヨイヨシレツヲ キワメー ニンゲンソーシツノ フアンセ ソーヲ
動 転 愈 々 熾 烈 を 極 め 人 間 喪 失 の 不 安 世 相 を

オーイ シンペンニセマリキタルヲオボユーー アルイハダンアルイハム コドク
蔽 い 身 辺 に 迫 り 来 る を 覚 ゆ 或 は 断 或 は 無 孤 独

セキバクコツジョトシテソツカムテイノシンエンニノゾムー キョーフマタキョーソー
寂 漠 忽 如 と して 足 下 無 底 の 深 淵 に 臨 む 恐 怖 又 狂 燥

ニンゲンフツキヲサケバントスルモオヨバズ サラニヒガシマタニシユギノカクシュ
人 間 復 帰 を 叫 ば んと する も 及 ば ず 更 に 東 又 西 主 義 の 確 執

チジョーカクショニナオセイメイノソソキヲホーミリサラントスー コレヲオモウニ
地 上 各 所 に 猶 お 生 命 の 尊 貴 を ほ お り 去 ら んと すー 之 を 思 う に

ジンイジンチノカシンハカエツテシゼンノカンヨーライ ビ トーケツスルカノカンアリ
人 為 人 智 の 過 信 は 却 っ て 自 然 の 寛 容 を 萎 靡 凍 結 する かの 観 在 り

シバラク コー ペラ メグラシテサンシサンショーヲヨースルノキニアラザルヤ
し ば ら く 首 を 回 ら して 三 思 三 省 を 要 する の 期 に あ ら ざる や

ー ココニ ハンニヤ トジヒヲ カカゲテ サンゼツカンノミョードーラゼツキョー
激 に 般若 と 慈 悲 を 掲 げ て 三 世 通 觀 の 妙 道 を 絶 叫

シタマヒシ ダイショーシヤカムニ セソノ キンゲンキンクーー アラタニセツセツ
した ま ひ し 大 聖 釈 迦 無 尼 世 尊 の 金 言 金 口 新 ら た に 切 々

タルモノアリーー コンネンマタレンギョーノ シンニニチヤ ケカサゲノクリキヲ
た る も の あ り 今 年 又 練 行 の 諸 衆 日 夜 毎 過 悔 悔 の 功 力 を

カサネ トーガンシジョーノ ダイヒ ガンニ アズカラントスルモノナリーー ヨツテ
重 ね 当 願 衆 生 の 大 悲 願 に 預 か ら んと する 者 な り 仍

コイネガワクパ ヒル シヤナ ノ コーミョーアマネク シュジョーカイニコーヒ シー
 翼 くば 毘盧遮那の 光 明 遍 く 衆生 界に光 被し
 カンジゼイサツタノ シアイタチマチニ カンロノホーウヲソイデアマネクキカツノ
 観 自在 薩 埵 慈愛 たちまちに 甘 露の法 雨をそそ で 普 ねく創湯 の
 シュジョーライヤシタマヒー ソー ケ ゴンジョーノダイレンゲ ノーカイヲシヨーゴン
 衆生 を 医やしたまひ 難 華嚴 浄 の大 蓮 華 藏 海 を莊 嚴
 セシメタマワ コントロー ヨツテシヨシエクダンノゴトシー ショーワ ヨ
 せしめ玉 わんことを 依 而所修 件 の如し 昭 和 四
 シュ ニネンコンガツ コンヤ セ シュ レンギョーシュウ ヲヤマツテモースー
 十 二 年 今 月 今 夜 施主 續 行 衆 敬 っ て 白 す
 2 ヲヤマツテモースフジュモンノ コトー サンポーシュノーオンブセイッカー
 敬 っ て 白 す 護 誦 文 の 事 三 宝 衆 僧 の 御 布 施 一 裘
 ミギシシュハ トーリョーノ シガンヲ イノランガタメー サンカノ ポンレイヲ
 右 志 願 は 登 龍 の 志 願 を 祈 らんがためー 三 個 の 梵 鈴 を
 ナラスモノナリー ア オ キ コイネガワクパ ダイシヨ ノカヒヨ コームツテハ
 鳴らす者 也 仰 き 翼 くば 大 聖 の 加 被 を 蒙 っ ては
 ハイセイノ チンチャクヲ ウシナワズー ネンライケイセツノ コーゼンブン
 平 静 の 沈 着 を 失 わず 年 来 蜚 雪 の 功 全 分
 コレヲ トーカイスルコトヲエテー ガクギョーノ スーフ ソーゲノホートー
 是 を 答 解 する こと を 得 て 学 業 の 枢 府 象 牙 宝 塔

タチマチニソノトビヲヲヒラキー ヤガテハテンブンノハツヨーテンシヨノ
 忽 ち 其の 原 を 開 き やがては 天 分 の 発 揚 天 尊 の
 ジカクモツテシヤカイニ コーケンセンコトロー ナイシエ ニチモロモロノヤミ
 自 覺 以 っ て 社 会 に 貢 献 せん こと をー 乃 至 惠 日 諸 の 闇
 ヲヤブリ アマネク アキラケク セケンヲテラサンー ヨツテシヨシエクダンノ
 を 破 り 普 く 明 らけく 世 間 を 照 さん 仍 而 所 修 件 の
 ゴトシー ショーワ ヨンシエ ニネンコンガツコンヤ セシュソレガシウヤマツテ
 如 し 昭 和 四 十 二 年 今 月 今 夜 施主 某 敬 っ て
 3 モースー ヲヤマツテモースフジュモンノコトー サンポーシュノー
 白 す 敬 っ て 白 す 護 誦 文 の 事 三 宝 衆 僧 の
 オンブセイッカー ミギシシュハ シンチエーノ ショガンヲ イノランガタメー
 御 布 施 一 裘 右 志 願 は 心 中 の 所 願 を 祈 らんが為
 フダラクノ レイシヨニ ケイシテ ポンレイヲナラシー ショソノヲ オドロカシ
 補陀落 の 靈 場 に 詣 して 梵 鈴 を 鳴 し 諸 尊 を 驚 かし
 タテマツルモノナリー ソレクギョーライハイノ ウテナノウエニハマスマスイチ
 奉 る者 也 夫れ 恭 敬 礼 拜 の 台 の 上 には 益 ター
 シュイチメンノ ヨーゴニ アズカッター パンシュノハナニオイヲホドコシ
 十 一 面 の 擁 護 に 預 っ て 万 春 の 花 句 を 施 し
 ジュライチョーモンノ ユカノモトニハー カサネテフモンコーダイノオンドクヲ
 従 来 應 聞 の 床 の 下 には 重 ね て 普 門 広 大 の 恩 徳 を

コームリーー センシュノ ツキヒカリヨ マシ ナオイノラクハ ガクキョー イヨ
 蒙り 千秋の月光を増し猶祈らくは 学業愈
 イヨ ススミ ソーゲノ ホートーソノモンヒラヒラカンー ヨツテ ショエクダ
 ヲ 進み象牙の宝塔其の門扉を開かん 仍つて所修件
 ノゴトシー ショーワ ヨンジュニ ネンコンガツコンヤ セシュソレガシウヤ
 の如し 昭和四十二年 今月今夜 魔主 某 敬
 マツモースー ウヤ マツモース フジュモンノコトー サンボー
 って白ス 敬 って白す 諷誦文の事 三宝
 シュソーノ オンブセイッカーー ミギシシハゴクノ エイレイナラビニゼン
 衆僧の御布施一裹 右志願者護国の英霊並びに全
 セカイノ センボツノ ショレイノ ボダイヲ トムラワンガタメー シュニノホーゼン
 世界の戦没の諸霊の菩提を弔わんが為 修二の宝前に
 ニヒザマスイテサンカノ セイケイヲ ナラスモノナリー ソレカンノンサッタ
 に距いて三個の清響を鳴す者也 夫れ観音薩埵
 ハレンダイヲ ササゲテ ショレイヲ アンヨーカイニ ミチビキタマイー カネテハ
 は蓮台を捧げて諸霊を安養界に導き玉ひ 兼者
 ジヒヲ イカソクノ ウエニ タレコクドヲ アンノンニ マモリ タマワンコトロー
 慈悲を遺家族の上に垂れ国土を安穩に護り玉わんことをー
 サラニハ マタ ロクシンケンソクコトゴク ジョーブツスルコトヲ エテ ダイダイノ
 更には又六親眷屬悉く成仏することを得て代々の

ユーコンオナジク イチレンノ カダイニザシー シシノ ガンジキモマタジョー
 幽魂同じく一連の花台に座し 四生の含識も亦上
 ボンナイインノ ホーセツニイタランーン ナイシウエンムエンドーショ フツカー
 品内院の宝刹に至らん 乃至有縁無縁同証仏果
 ヨツテ ショエクダノゴトシー ショーワヨンジュニ ネンコンガツコンヤ セシュ
 仍而所修件の如し 昭和四十二年 今月今夜 魔主
 レンギョーシユイチドー ウヤマツモースー ウヤマツモースフジュモンノ
 練行衆一同敬 って白す 敬 って白す 諷誦文の
 コトー サンボーシュソーノ オンブセイッカーー ミギシシハ ナニガシ
 事 三宝衆僧の御布施一裹 右志願者何某
 タンメイ カイゴヲ イノランガタメー シュニノホーゼンニヒザマス
 断迷開悟を祈らんがため 修二の宝前に跪
 イテイッシノ タツシンヲ ササグルモノナリー コイネガワクバ タクシヨ
 いて一枝の唵呪を捧ぐる者也 乞願くば托生を
 クボンノ シエイニ ボクシテ カクゴヲジョー ボンノ ウチナニヒラカンー
 九品の止榮にトして覺悟を上品の台に開かん
 ナイシグンルイドーショ ジョードー ヨツテショエクダノゴトシー
 乃至群類同生浄土 仍而所修件 如し
 ショーワヨンジュニ ネンコンガツコンヤ セシュソレガシウヤ マツモースー
 昭和四十二年 今月今夜 魔主 某 敬 って白す

On the *SHŌMYŌ* RECITED at the *NIGATSUDŌ* HALL
of the *TŌDAIJI* TEMPLE (XII-b)

(Continued from the preceding issue)

—With Special Reference to '*Kakochō*' & '*Fujumon*'—

Eizō MAKINO

(Department of Music, Nara University of Education, Nara, Japan)

(Received April 28, 1984)

It is contemplated in this issue to research into the constitution of the rhythm and intonation of the reciting or chanting of the latter half of the *Kakochō*, which could not afford to be referred to in the article of 1983 (XII-a), and that of the *Fujumon*, recital of the *Kakochō* chanted by the officiating priest, *Daidōshi*, in the early-evening period, *Shoya*, every day during the fortnight's ritual.

The recital of the *Kakochō*, proceeding to the third section, gives way to a monotonous reading, one item after another read out rapidly in a monotone. The List of departed persons from the first to the 671st is recited in proper order, while the 672nd to the 3314th are read off at a stretch, some of them skipped over according to the reciter's judgment. For the part from the *Meiji* Period (1868—1912) up to date, covering the 3716th to the latest, all of the departed are mentioned in proper order. The *Fujumon* is recited by the officiating priest, who describes what are purported by those who wish the dead the repose of their souls. It is recited in a tone peculiar but monotonous as well. What are contained in the *Fujumon* are prayers for both of the alive and the dead offered by all the priests participating in the religious performance, *Shunie*, or individuals devoting themselves to the religious service for the departed. It is a matter of interest to observe through the prayers that each of the times has its own religious way of thinking.